

# NEWS RELEASE

2008年11月6日  
コベルコクレーン株式会社

## コベルコクレーン 2008年9月中間期 決算概要

### 【2008年9月中間期の概況】

海外のクレーン市場は、サブプライム問題に端を発した世界的な金融不安により不透明感を強めながらも、大型プロジェクトを中心としたエネルギー関連投資を継続する中東、金融危機の影響で一般景気の停滞感は強いもののクレーン需要は未だ堅調な北米、インフラおよび産業基盤の整備による新車需要の拡大が続いている東南アジア、石油化学や電力等のプロジェクトへの投資を計画的に進めるインドなど、全世界的なクレーン需要は不安定ながらも足元は依然堅調であるといえます。

また、国内のクレーン市場においては、中古機の海外輸出による国内ストック台数の減少、老朽化した機械の入替えなどで、引続きクローラクレーン需要は高水準で推移していますが、ホイールクレーン市場においては、民需の低下や、資材費高騰などに起因した不動産不況による陰りが見えはじめ、マーケットは軟化傾向にあります。

このような環境の下、当社は、前年度からの受注残を確実に出荷し、また更なる拡販に向けた増産に対応することで、国内および海外の主要エリアで販売台数を伸ばすとともに、将来へ向けた事業基盤の整備に取り組みました。

中東・東南アジア・インドなど重点取組地域への販売促進  
更なるラインナップ強化に向けた新機種の開発推進  
マニトワック社・タダノ社との連携による収益力拡大  
受注残の確実な出荷と更なる拡販に向けた生産能力増強  
将来のリセッションに備えた事業基盤整備

これらの取り組みにより、当期のクレーン新車販売台数(全クレーンメニューの総台数)は約490台を達成し、前年同期比で約17%の増加となりました。(07年度上期の新車販売台数は約420台)

特に中東・北米・ならびに日本を含めたアジア地域における販売台数の拡大が、収益面でも大きく貢献しました。海外向けの売上比率は、連結売上高で約70%となっており、主力のクローラクレーンにおいては、従来からの積極的なグローバル展開の推進により、台数ベースで80%近くまで達しております。

これらの結果、コベルコクレーンの2008年9月中間期(2008年4月～2008年9月)の業績は、連結の売上高、経常利益とも、前年同期比約1.3倍の収益を確保することができました。

< 2008年9月中間期の実績 >

{単位:百万円、( )内は前年同期比}

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	2008年9月中間期	46,234 (+33.6%)	5,561 (+27.7%)	5,449 (+27.8%)	3,559 (+33.8%)
	2007年9月中間期	34,607	4,356	4,263	2,660
単体	2008年9月中間期	43,397 (+31.1%)	4,188 (+10.7%)	4,055 (+10.5%)	2,606 (+21.0%)
	2007年9月中間期	33,091	3,782	3,671	2,153

連結の売上高は国内向けが147億円(前年同期比+19.5%)、海外向けが315億円(同+41.3%)となり、全体としては462億円(同+33.6%)となりました。

## 【2008年上期の事業別状況】

### 海外市場

海外市場においては、更なるグローバル展開を目指し以下の取り組みを行いました。

鉄道や空港、石油化学関連設備の建設などのメガプロジェクトが続く中東市場においては、新規代理店の設定や代理店のトレーニングなど販売サービス体制の強化を図り、引続き新車販売の好調さを維持することが出来ました。また、現地での顧客満足度向上に向けて、部品在庫販売に向けた取組みも行っており、年内には現地での部品在庫を開始する予定です。

一般景気に停滞感が出ている米州市場においては、金融危機の影響はクレーン市場には未だ見られず、風力発電などの環境・エネルギー関連やハイウェイ整備などの工事が継続していることから、クレーン需要は不安定ながらも依然堅調に推移しているといえます。この状況の中、代理店・サービス流通網などの拡大を図り、引続き前年同期と同程度の販売台数を確保するとともに、部品拡販やサービス体制強化に向けた基盤づくりを行いました。

インフラおよび産業基盤の整備により新車需要の拡大が続く東南アジアでは、流通網強化を図り、拡大する需要を確実にとらえて販売台数を大きく伸ばすことが出来ました。

石油化学プロジェクトにより急成長を遂げてきたインド市場においては、今後、電力関連のインフラ整備を中心として更なる市場の拡大が見込まれており、当社では08年度の市場規模は07年比で大きく拡大すると推測しています。このクレーン需要を確実に取り込むため、マーケティングおよびサービス体制強化の一環として、10月1日に現地駐在員事務所を設立致しました。

更に、欧州、韓国、豪州など、中国を除く殆どの世界主要エリアで、新車販売の好調さを維持することが出来ました。

### 国内市場

クローラクレーン新車市場においては、需要が前年同期比44%増と好調に推移し、当社もこの新車需要拡大に対応して受注残を確実に出荷することで、販売台数を着実に伸ばすことができました。

ラフテレーンクレーン市場においては、足元の工事量減少に伴う稼働率の悪化や、建設・不動産業界への金融引締め等、先行き不透明感が強く、需要の伸びは前年同期比8%増にとどまり、市場は鈍化傾向にあります。このような状況の中、6月1日に販売を開始し、2008年度グッドデザイン賞を受賞したシティコンシャスクレーンの新モデル、パンサーX(エックス)250のコンセプトは、市場でも概ね好評で、販売を順調に伸ばしています。

生産面においては、国内外の受注残案件の確実な出荷対応と更なる販売増を目指して、取引先の協力のもと、調達能力を強化し、生産面では、ジャストインタイム生産方式により、リードタイムの短縮、生産効率アップを図り、積極的な増産対応に取り組みました。その結果、販売台数の拡大にも大きく貢献致しました。

サービス面においては、本年4月より販売開始した遠隔稼働管理システムKCROSSを活用し、顧客満足度の向上を図るとともに、サービス体制の変革にも取り組みました。

また、本年4月に設立した中古車専門会社のコベルコクレーントレーディング、カスタム対応力強化を目指した専門子会社KCテクノサービスの2社は、上期黒字を達成することが出来ました。

### 他社との提携関係

米国マニトワック社へのクローラクレーンのOEM供給については、引き続き順調に推移し、前年同期比約1.2倍の販売台数を確保することが出来ました。また、更なる生産性向上や開発効率化などを図るべく、連携強化を引き続き検討してまいります。

更にマニトワッククレーングループ社よりOEM調達しているオールテレーンクレーンも確実に市場浸透しており、受注は好調です。

ラフテレーンクレーンについて、小型機種本体のOEM供給を受けているタダノ社との提携関係においても、有効な提携関係を維持することが出来ました。今後も引き続き緊密な協力関係を継続していきたいと考えております。

## 【今後の重点課題と2008年度の見通し】

08年度下期は、世界的なクレーン需要は不透明感を強めながらも、当社は受注残を多く抱えており、販売は堅調に推移するものと予想されます。しかし、事業環境は、不安定な為替動向や、とどまる所を知らない鋼材を中心とした資材費のアップという収益圧迫要因に加え、昨今の金融不安を背景とする市場そのものの急激な変化の可能性も含んでおり、極めて先行き不安定な状態にあります。

このような状況の中、現中期計画最終年度である08年度の事業見通しについては、下記の重点課題に確実に取り組むことで、連結では07年度を上回る収益確保を計画しております。

また、現中期テーマである「クレーン事業の再構築」に向けて体質強化の集大成を図るとともに、将来のリセッションを見据え、ナビゲータを利用した定期情報収集や具体的行動計画策定など、予知活動と対策準備の両面から、引き続き更なる基盤強化に取り組んでまいります。

### < 重点取り組み課題 >

安定生産体制の強化とコストダウンの実行  
 提携パートナーとの協力体制の継続による収益拡大  
 国内外の流通整備および新興市場での販売サービス体制整備  
 シティコンシャスクレーンを核とした更なるホイールクレーンビジネス強化  
 ライフサイクルビジネス強化に向けた中古車会社事業運用体制の早期確立  
 将来のリセッションを見据えた基盤強化と次期経営計画の構築

### < 2008年度通期の見通し >

{単位:百万円、( )内は前年度比}

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	100,000 (+40.4%)	9,700 (+4.4%)	9,500 (+3.9%)	6,000 (+13.6%)
単体	91,000 (+28.5%)	7,500 (-13.2%)	7,600 (-15.1%)	4,700 (-10.3%)

\* 2008年度における為替レート前提: 1米ドル=105円、1ユーロ=155円

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以上

### 会社概要

社名	コベルコクレーン株式会社		
英社名	KOBELCO CRANES CO.,LTD.		
創立	2004年4月1日		
本社所在地	東京本社:東京都品川区東五反田2-17-1	代表	03-5789-2130
資本金	63.8億円 (株)神戸製鋼所 100%		
代表取締役	丹野 宜弘(たんの よしひろ)		
事業内容	建設機械の開発、生産、販売並びにサービス		
ホームページ	<a href="http://www.kobelco-cranes.com">http://www.kobelco-cranes.com</a>		

## 平成20年9月中間期 決算業績概要

会社名 コベルコクレーン株式会社  
 代表者 代表取締役社長 丹野 宜弘  
 問合せ先責任者 取締役 経営企画部長 砂河 利文 : 03(5789)2130  
 決算取締役会開催日 平成20年10月29日  
 親会社 株式会社神戸製鋼所(当社株式の保有比率:100%)

## 1. 平成20年9月期の連結業績(平成20年4月1日~平成20年9月30日)

## (1) 連結経営成績

	売上高	営業利益	経常利益	中間(当期) 純利益	一株当たり 中間(当期)純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
20年9月中間期	46,234	5,561	5,449	3,559	34,287.09
19年9月中間期	34,607	4,356	4,263	2,660	25,632.14
20年3月期	71,231	9,289	9,143	5,282	50,898.38

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	一株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年9月中間期	56,053	29,305	52.3	282,321.77
19年9月中間期	44,543	26,087	58.6	251,326.50
20年3月期	49,935	28,215	56.5	271,825.30

## (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 の期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年9月中間期	3,944	320	4,052	2,887
19年9月中間期	1,081	1,114	940	3,841
20年3月期	1,417	611	293	3,099

## 2. 平成20年9月期の個別業績(平成20年4月1日~平成20年9月30日)

## (1) 経営成績

	売上高	営業利益	経常利益	中間(当期) 純利益	一株当たり 中間(当期)純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
20年9月中間期	43,397	4,188	4,055	2,606	25,112.74
19年9月中間期	33,091	3,782	3,671	2,153	20,746.74
20年3月期	70,843	8,639	8,949	5,242	50,502.91

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	一株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年9月中間期	54,097	27,787	51.4	267,705.56
19年9月中間期	42,531	24,670	58.0	237,671.47
20年3月期	48,881	27,508	56.3	265,012.63

## (3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 の期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年9月中間期	3,530	568	4,097	76
19年9月中間期	387	893	1,168	74
20年3月期	275	747	187	77

## 3. 平成21年3月期の業績予想(平成20年4月1日~平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
連結(通期)	100,000	9,700	9,500	6,000
個別(通期)	91,000	7,500	7,600	4,700

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。  
 実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。